

平成 26 年 10 月 17 日

# 南の風 86

南部ミニバスケットボール連盟  
会 長 藤原 敬一

85号のケースワークの続きです。(77~79号とも関連します。)

## ②ずっと負けていて(10点以内)、追いついていき4Qで接戦になった場合

このケースでは、流れはこちらにあります。オフェンスを強気でいきたいものです。自分たちの流れを渡さないことです。留意しなくてはいけないことは、4Qの始めです。クォーター制は、得てして流れを切ってしまう(相手も立ち直るきっかけがある)ことがあるからです。3Qまでのよい流れを切らないことです。そのためには、強気の攻め(波状攻撃)が有効です。得意のプレーを続けざまに出しましょう。ディフェンスはプレスでいくか、取りあえずハーフにしてしっかり守り相手のミスを狙うかは、これまでの相手のボール運びや、オフェンスの状況から、ベンチが**決断**します。この**ベンチの状況判断が勝敗を分ける**ことになります。この状況での基本は、「**強気**」です。1人ひとりの力量にもよりますが、ボールを持った時の1対1を忘れずに行うことが大切です。オフェンスをシンプルにして力強く攻めましょう。

## ③ずっと勝っていて(10点差位)、追いつかれて4Qで接戦になった場合

難しいケースです。(タイムアウトを取るタイミングについては別途取り上げます。)

流れをしっかりと見極めて対処しないといけません。一般的に言えばオフェンスは、迷わず攻めることが必要です。**迷わず攻めない**と**ディフェンスを頑張れない**のです。オフェンスが崩れると、ディフェンスにも影響するという事です。(シュートで終わることが大切)

次にこのケースでは、ゲームの流れは相手が有利とされます。徹底してディフェンスを5人で頑張ることが必要です。「トーキングやヘルプ&ローテ、リバウンド」が勝敗を分ける気がします。オフェンスは確実にシュートを決めることが求められます。自分たちの得意なプレーをまず1回決めるように頑張る事です。そして、**オフェンスリバウンドに必ず行く**ことです。

また、追いつかれそうになって浮足立つ選手を、どうコントロールするかがベンチの重要な役割となります。

3つのケースを取り上げて見ました。それぞれのチームで吟味してください。すべての状況にはマッチしていないと思いますが、参考になれば幸いです。

接戦の時や流れが悪い時の、タイムアウトのタイミングについて書きます。78号でも書きましたが、原則としてタイムアウトの時期は、コーチが取りたい時です。(よってコーチの責任が重大です。)取りたい時に取ればいいのですが、**取るべき時期を見誤ると最悪となります**。基本的には、ゲームの流れや相手の勢い、点差、残り時間、選手の集中度、などからタイムアウトを取るかどうかを、**瞬時に判断しなければなりません**。コーチのゲーム大局観と経験がものを言います。ミニバスの場合、後半1回しかないタイムアウトは、本当に貴重なものです。ですからミニバスの場合のタイムアウトは、どちらかというとな緊急避難的なものになることが多いです。一方中学以上は、戦術的に取るケースも多くなります。タイムアウトについては、コーチ自身が振り返りをする必要があると感じます。